

情報リテラシー

責任者・コーディネーター	情報科学科医学統計情報学分野 小野 保 講師(C1)、 情報科学科数学分野 江尻 正一 教授(C2)		
担当講座・学科(分野)	情報科学科 数学分野・医学統計情報学分野、物理学科		
担 当 教 員	江尻 正一 教授、高橋 史朗 教授、奥村 健一 准教授、小野 保 講師、 小松 真 講師、小田 泰行 講師		
対 象 学 年	1	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 7 コマ 14 時間
期 間	前期		演習 7 コマ 14 時間
			実習 0 コマ 0 時間

・学修方針（講義概要等）

“読み書き算盤”という学びの基本を示した古くからの言葉があるが、その本質は色褪せることがない。複雑な現代社会の中で病める人々と向き合わなくてはならないこれからの医療人にはさらに“聴く・話す”能力も求められる。コンピュータと関連機器は、これらの学びの基本の習得および実践活用を強力にアシストする現代の神器である。しかし、ボタンを1個押せばあとは御任せというわけにはいかない。本科目は、習得訓練によってコンピュータと関連機器を勉学・研究生活の強力無比なアシスタントとして、倫理観をもって操る能力を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

情報機器、アプリケーションソフトウェア、ネット等を道具として実践的に利用しながら、より実社会、専門領域等につながるICT活用の基礎知識・基本概念を修得することによって、ICT活用の基礎理解を深め、コンピュータリテラシー及び情報リテラシー能力を高める。このことにより、実社会や専門領域等で出会う種々の情報関連課題に対して、ICTを用いて情報収集・分析し、適正に判断し、モラルに則って迅速かつ効果的に対処する能力を会得することができる。特に、演習を通してデータ処理と処理結果の視覚化、並びに結果をまとめ発信する基礎的能力が身につく。また、情報ネットワーク社会の構成員としての自覚と責任を十分に理解することで、LANやインターネットをコミュニケーションツールとして利用する際、情報ネットワーク並びに社会の倫理規範等に従って安全に情報を活用・管理することができる。さらに、データサイエンス・AIに関する基礎的事項の理解により、社会の変化に対する視野と医学への応用を考察する思考が身につく。
(ディプロマポリシー：1, 2, 4, 5, 6)

・到達目標（SBO）

1. コンピュータの基本構成と各装置の役割、およびインターネットの仕組みを説明できる。
2. フォルダ、ファイル、パスの概念を理解し、コンピュータでファイルの作成・保存・管理を安全かつ円滑に行うことができる。
3. 社会におけるデータ・AIの利活用についての技術と応用の基礎的事項を説明できる。
4. 情報セキュリティ、情報倫理について理解を深め、情報を安全に活用できる。
5. ワードプロソフト(Word)を用いて、目的の文書を作成できる。
6. スプレッドシート(Excel)を用いて、基本的なデータ操作・処理およびデータの視覚化ができる。
7. 統計解析ソフト(EZR)を用いて、基本的なデータ操作・処理およびデータの視覚化ができる。
8. オープンデータを検索・取得し、目的に応じて処理することができる。
9. プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を用いて、発表スライドを作成できる。
10. ICT を活用した情報の提示・発信により、他者との意見交換ができる。
11. 情報セキュリティの基本的考え方と具体的対策について説明できる。
12. 情報倫理に関する考え方について、具体例を挙げて説明できる。
13. 社会におけるデータ・AIの利活用についての技術と応用に関する基礎的事項を説明できる。

・講義日程
【演習】

（矢）東 1-A 講義室、東 2-B 講義室

クラス 月日	曜日	クラス 時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
C1 C2 4/14	月	3・4	数学分野 医学統計情報学分野 物理学科	江尻 正一 教授 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師	情報社会の基礎知識、データ・AIの利活用事例、情報の編集・文章化：講義、演習、レポート 1.コンピュータの基本構成について説明できる。 2.ファイル、フォルダ、パスの概念を説明できる。 3.コンピュータ内の特定の場所にフォルダを作成し、フォルダ内にファイルを保存できる。 4.Society5.0、データ駆動型社会などの社会の変化について概説できる。 5.AIの概要、メリット、デメリット、利用にあたっての注意事項について説明できる。 6.コンピュータを用いて指示に従った文書を作成できる。 事前学修：自己所有のPCにWordがインストールされていること、および起動できることを確認する。WebClassで提示される資料を通読し準備する。 事後学修：指示に従って課題に取り組む。

C1 C2 4/21	月	3・4	数学分野 医学統計情報学分野 物理学科	江尻 正一 教授 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師	社会で活用されているデータ、データ処理の基礎(1)(データの扱いと表現)：講義、演習、レポート、小テスト 1. 社会で活用されているデータの種類の列挙できる。 2. 構造化データ、非構造化データの違いを説明できる。 3. スプレッドシート(Excel)を用いて基本的なデータ操作ができる。 4. スプレッドシートで簡単なデータ処理ができる。 5. グラフの特徴を理解し、データを視覚化できる。 6. コンピュータで扱うデータの形式を理解し、適切にデータの読み込み・保存ができる。 事前学修：自己所有のPCにExcelがインストールされていること、および起動できることを確認する。前回の講義内容を復習する。WebClassで提示される資料を通読し準備する。 事後学修：指示に従って課題に取り組む。Excelの基本操作を復習する。
C1 C2 4/28	月	3・4	数学分野 医学統計情報学分野 物理学科	江尻 正一 教授 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師	データ・AIの活用領域、データ処理の基礎(2)(統計解析ソフトを用いたデータ処理の基礎)：講義、演習、レポート 1. データやAIの活用領域について具体例を挙げて説明できる。 2. EZRの基本操作ができる。 3. データの処理結果を正しく解釈できる。 事前学修：自己所有のPCにEZRをインストールし、起動できることを確認する。WebClassで提示される資料を通読し準備する。 事後学修：指示に従って課題に取り組む。EZRの基本操作を復習する。
C1 C2 4/30	水	3・4	数学分野 医学統計情報学分野 物理学科	江尻 正一 教授 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師	AIの利活用の技術と現場、データ処理の基礎(3)(統計解析ソフトを用いたデータ分析)：講義、演習、レポート、小テスト 1. Rのプログラムで簡単なデータの操作ができる。 2. EZRを用いて基本的な統計処理、視覚化ができる。

					3.AI の利活用に関する技術と現場について説明できる。 事前学修：前回までの講義内容を復習する。WebClass で提示される資料を通読し準備する。 事後学修：指示に従って課題に取り組む。
C1 C2 5/12	月	3・4	数学分野 医学統計情報学分野 物理学科	江尻 正一 教授 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師	情報セキュリティ、データ処理の基礎(4) (統計解析ソフトによる実データ処理)：講義、演習、レポート 1. 情報セキュリティの重要性を説明できる。 2. 情報セキュリティを支える主要な技術について説明できる。 3. 具体的なセキュリティ対策を列举できる。 4. オープンデータを検索・取得できる。 5. EZR を用いて基礎的な実データ分析ができる。 事前学修：WebClass で提示される資料を通読し準備する。 事後学修：指示に従って課題に取り組む。
C1 C2 5/19	月	3・4	数学分野 医学統計情報学分野 物理学科	江尻 正一 教授 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師	情報の保護・情報倫理、情報の提示と発信：講義、演習、レポート 1. 個人情報保護、情報倫理に関する法律・制度等を列举できる。 2. 個人情報保護法の要点を説明できる。 3. プレゼンテーションソフトの基本操作ができる。 4. 情報保護、情報倫理の重要ワードについて、プレゼン資料としてまとめることができる。 事前学修：自己所有の PC に PowerPoint がインストールされていること、および起動することを確認する。PowerPoint によるスライド作成、ならびにプレゼンに関する基礎的事項について調べる。WebClass で提示される資料を通読し準備する。 事後学修：指定されたテーマについて、発表用スライドにまとめる。発表練習を行い、必要に応じて発表内容、スライドを修正する。

C1 C2 5/26	月	3・4	数学分野 医学統計情報学分野 物理学科	江尻 正一 教授 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師	総合演習（グループ発表）：講義、演習、小テスト 1. 自作したスライドを用いて、発表時間内で適切なプレゼンができる。 2. 発表テーマについて他者と建設的な意見交換できる。 事前学修：前回までの講義内容を復習する。発表時間内に十分な主張ができるようにスライドを精査し、発表練習をする。相互評価の評価項目を確認する。 事後学修：グループ内の学生の意見も踏まえて医療人としての情報倫理、セキュリティ対策、データ・AIの利活用等に関して意見をまとめる。
------------------	---	-----	---------------------------	---	--

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	教養としてのデータサイエンス改訂第2版	北川源四郎，竹村彰通 編	講談社	2024
参	大学基礎データサイエンス	伊藤大河，川村和也，内田瑛，河合麗奈 著	実教出版	2023
参	[改訂第5版]基礎からわかる情報リテラシー	奥村 晴彦，森本 尚之	技術評論社	2023
参	30 時間でマスター Office 2021	実教出版企画開発部	実教出版	2022
参	キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2024	佐藤 義弘 他監修	日経 BP 社	2024
参	EZR でやさしく学ぶ統計学 改訂3版	神田善伸 著	中外医学社	2020
参	医療情報の基礎知識 改訂第2版	一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会	南江堂	2019

・成績評価方法

【総括評価】課題・提出物（60%）、小テスト（全3回実施、計20%）、グループ発表会（態度・意見10%、学生間相互評価10%）

【形成的評価】各回の講義でレスポンスフォームの提出を求め、学修の成果を確認する。

・特記事項・その他

1. 本講義は複数のクラスで構成されるが、各クラスの講義内容等は同じである。
 2. 自己所有のノート PC (MS Windows11/MS Office2021 以降、最新セキュリティ対策済) を毎回持参すること。ただし、Office 互換ソフト、Web 版 Office は不可とする。なお、Mac 使用者は事前の申し出により授業時間に限り大学所有の Windows PC を借用することができるが、学外持ち出し不可のため講義終了時に必ず返却してもらう。講義中に扱ったデータや課題等は借用 PC には保存できないため、USB メモリーを必ず持参すること。
 3. 各回の事前・事後学修には合わせて 75 分以上を要する。
 4. 講義資料および関連情報の提示、事前・事後学修、課題等の連絡は原則 WebClass で行う。
 5. 毎回課題とレスポンスフォームの提出を求める。講義時間内に終わらなかった課題は、事後学修として取り組むこと。
 6. 作成した課題は期限（原則 1 週間以内）までに WebClass にアップロードすること。
 7. 課題についてのフィードバックは、講義内や WebClass にて適宜行う。
 8. グループ発表会ではルーブリックによる学生間相互評価を実施する。
 9. 小テストは、Web 上で実施する。問題は多肢選択方式、記述方式から出題する。
 10. 成績確定後、希望者には成績を開示する。
 11. 本科目は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の対象である。
- 【参照】医学教育モデル・コア・カリキュラムー教育内容ガイドラインー（令和 4 年度改訂版）

当該科目に関連する実務経験の有無 無

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート PC(MS Windows)	2	担当教員資料作成、講義プレゼン
講義	ノート PC(MS Windows/Apple Mac)	4	実験実習補助者資料作成、講義補助
講義	教室付属 AV システム一式	2	講義資料提示、講義プレゼン